学校法人文京学園
理事長／学園長

島田燁子

誠実・勤勉・仁愛の心で

２０１２年の新春にあたり、本年が平和で安全であり、園児・生徒・学生、そしてご家庭の皆様が健康でありますようにと心から祈念申し上げます。

申すまでもなく、昨年は東日本大震災をはじめ災害が多く、改めて大自然の秘める力の脅威に恐れおののきました。同時に人間が発明して使いこなしたと思ってきた科学技術が、「原子力発電所」が破壊されたことで安全で便利どころか、健康を害す不安に変わることを体験したのでした。それでもコンピュータやテレビ、携帯電話といった文明の利器で情報はすぐに世界中に伝わり、160カ国、40地域の人々から救援の人や物資、見舞金が寄せられました。日本の復興を世界の人々が祈り、励ましてくれました。日本国内でも多くの人がボランティアに参加し、義援金を被災地に届けました。「絆」という言葉がしきりに使われ、家族や地域に強い関心が寄せられるようになりました。

「共生」という言葉も以前より頻繁に使われるようになったと思いませんか。

実は人間は、ある時期を迎えたら、自立を心がけなければなりません。そのために教育も受けているのです。「共生」はその基になるとても大切な「人間のあり方」であり、家族をはじめ様々な人と互いに相手を尊重しながら、仲良く協力をしていくことでもあります。私たちは物心両面で世界中とつながっていますから、世界とも共生していかなくてはならないのです。

グローバル（地球）化社会ということがよく言われます。今年はこのグローバル化社会の荒波が一層強くなることでしょう。農業も工業も金融も大きな影響を受けることは確実です。自立した日本でありながら、外国とうまく共生していくことを真剣に考える年となりましょう。

文京学園は幼稚園から大学まで国際化に力を入れて「日本人として誇りを持って交流し、きちんと発信できる」人づくりを目指してきました。西欧ばかりでなくアジアを含むユーラシア大陸に目を向け交流していくことも目標としています。

本年は、学園創立100周年までに5回、文京学院生をユーラシア大陸の国々に向けて送り、文化交流を図る「新・文明の旅」プログラムの記念すべき第1回目の実行年です。いよいよこの2月29日から17日間にわたってトルコ、ブルガリア、ルーマニアの各提携大学を訪問します。約50人の学生が、かなり高度の学習をアクティブ・ラーニング方式で1年間学び、プレゼンテーションを行い、17人の派遣学生が選ばれたところです。日本の大学でこうした方法でユーラシア大陸へ学生を送るこの意味はとても大きいと確信します。

西欧中心を抜け出て、ユーラシア大陸という本当に大きな地域で日本の在り方を考えてほしいからです。

工業もビジネスも大切ですが、水や食糧、エネルギーにも目を向けてほしい。本当の幸せとは何かも考えてほしいと願っています。それにはこうした非西欧の視点も捉え、自分の「いのち」が過去から現在へと共に生きる存在であること、一人では生きられないことを実感してほしいと思います。

自分の存在は想像以上に広く重く、一人ではないことを知って、改めて自分だけではなく他人を大切にする心を強くしてほしいですね。まさに多様な人々と共に豊かな社会を築いていくことに努力する年ではないでしょうか。

共生していくために何よりも大切なのは、信頼の元になる「誠実さ」です。相手を認め、自分の嫌なことはしない、という相手を大切にする気持ちこそ基本でしょう。大変難しいとはいえ、お互いの文化・文明を理解することにつながるのではないでしょうか。

幼稚園、中学校、高等学校、そして大学まで国際化を進めてきている文京学園では、「誠実・勤勉・仁愛」の校訓の実践こそ、信頼の元になり、共生の第一歩となります。本年も創立者の定めた校訓を大切にしたいと思います。